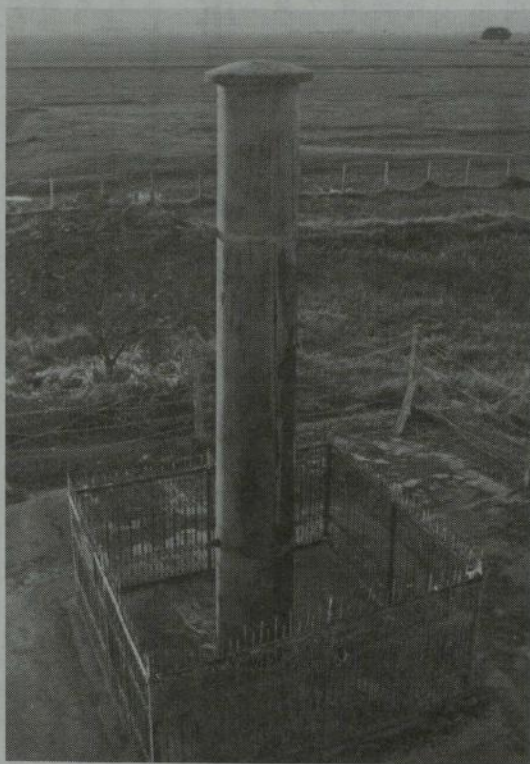


# 全 仏

6 / 54

第48回全日本仏徒式会場

第48回全日本仏徒式会場



## 安 居

梅雨の細い雨が、あじさいの色を一層あざやかにするのもこの季節の持つ良さの一つでしょう。日本の梅雨は、六月にだいたい決つておりますが、インドでは、四月十五日から三ヶ月間が雨季となります。この間、毎日雨が降り続きます。外出も思うにまかせないのは、もちろんの事ですが、お釈迦様の教えにもとずき、外出すると草木や小虫を知らずに踏み殺すおそれがあるとして、洞窟や寺院に籠って修行にはげむ習慣が仏教徒の間に定着しておりました。今日でも仏教各宗では、七月お盆前後に教学の学習や、修行が行なわれ、毎年多くの僧侶が学習に、修行にと暑さの中真剣に取り組んでいます。私達も、安居の心を何かに生かして生活したいものです。(N)

昭和54年6月1日

# 茨城大会の準備すすむ

## 第26回全日本仏教徒会議

第二十六回全日本仏教徒会議は、茨城県仏教会の主催により開催されることになり、大越会長のもと実行委員会を組織し、着々と準備が進んでいる。本年の全仏大会は、十月十五日(月)、

水戸市民会館において開催されることになった。本年も一昨年の埼玉大会と同様、大会は一日だけとし、参加人員は会場の都合により、県外三百名、県内七百名、計一千名の予定である。部

会は、実践、檀信徒、仏婦、仏青の四部会とし、茨城県仏では、県仏青の組織作りをすすめている。なお、大会の前日には同じく水戸市において県仏代表者会議が開かれる。

## 全日仏青 新理事長に永倉師

昭和五十四年度全日本仏教青年会総会が、去る五月十八日午後二時より東京グランドホテルにおいて開催され、各仏青代表者二十余名が参集し、事業報告、決算及び任期満了に伴う役員改選等について審議がなされた。

年の世界仏教徒会議日本大会を契機として、世界仏教青年連盟の地域センターとの交流を深めるため、新たに海外交流委員会を設置することになり、加盟団体より一名、委員を選出することとした。

### 理事長をお受けして

………永倉 嘉文



永 倉 師

まず、平原全日仏青理事長、龍山全仏組織局長の挨拶に引き続き、議長を選出し、審議に入った。事業報告並びに決算を原案通り承認のあと、役員選出に移り新理事長に神奈川仏青の永倉嘉文師が選出され、副理事長には、大阪府仏青、埼玉県仏青、全関西洞宗仏青及び在京仏青の各団体より一名づつ、計四名選出することとなった。また、事務局長には、神奈川仏青の都築哲信師が指名され、その他幹事数名共に承認された。さらに、昨

昨年は全日本仏教青年会(全日仏青)

永倉理事長は、今年度の抱負として、

地域仏青の結成を呼びかけ、また、未加盟の仏青の加盟促進を計り、組織を拡充し、機関誌等を通じて加盟仏教青年会間の情報交換と交流を推進したいとしており、先の海外交流委員会の活動と共に、新理事長のもと、内外にわたる仏青の飛躍が期待される。

にとつて、世界仏教青年連盟・WFBYの第三回大会と、それを記念した国内仏教青年の結集大会の開催など、誠に多忙な年でありました。両大会の開催については、全日本仏教会の全面的な御支援をいただき、ともかく盛會裡に終えることが出来、深く感謝しております。この大会が生んだ芽が将来、大きく育つかどうかは、全日仏青の今後の活動にかかわっていることを考えると、理事長就任の責務の重大さにひたすら身の縮む思いが

いたします。

現在、日本の仏教各宗派などにおいて青年の活動は活発に勢いよく行なわれている状況です。次代にない手として、自分たちが直面する諸問題を共に考え、若い力を結集して解決の道を探して行くのは、将来にとって明るく頼もしいことでもあります。

日本の仏教は七百年から千年に及ぶ歴史を持つ、宗派という分れた道を進んで来ました。昭和の現代に生きる私たち仏教青年は、正直に言って自分が属する宗派を以てのことについては、頭では多少わかっていても、現実は何も知らないのではないかと。お互いの交流もほとんどないのが実状だと思います。

現代に生きる仏教は、現代の生々しい諸問題に当面せざるを得ません。社会機構が複雑化するにつれ、仏教団体も、僧侶も社会的義務の履行を強く迫られるようになります。主張する権利は当然主張するにしても、その制約も一段ときびしくなつて来ています。

現代に適応した仏教となり、そして未来にむけ、世の中を革新して行く仏教となるためにも、仏教青年が共通して直面し、いま現在抱えている諸問題に関心をもち、真剣に取り組む必要があるのではないのでしょうか。

仏教青年の垣根を超えた理解と友好連帯のために、微力を尽したいと思っております。全日本仏教会各位の絶大なご支援、ご指導をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。



アンベードカル博士にひきいられて、マハールという不可触カーストの人が仏教に集団改宗したのは一九五六年のことである。爾来二十余年、この特異な仏教運動はそれなりに定着した。

マハールはデカン西部を中心にひろがる非常に大きなカーストで、四五〇万人以上の成員がいる。アンベードカルは比較的富裕ではあるが、このカースト出身である。才能と努力によって英米に留学し、博士号と弁護士資格をもち、独立インド初代の法務大臣として憲法草案の作成まで手がけた彼においてすら、不可触カーストに属するが故の差別をまぬがれることはできなかった。彼の一生はマハール、ならびに広く不可触民の指導者として差別撤廃を目指す長年の闘争に彩どられていく。しかし結果は思わしくなかった。ついに彼はヒンドゥー教徒たることをやめ、カーストを出ることによって、

かく疎外されてきたクラスの地位向上をはかろうとした。ここで改宗先にえらばれたのが仏教だった。

したがって「新仏教」運動は、たしかにインドにおける仏教復興運動にはちがいないが、仏教精神の復興であると単純によるこんでもいられないさまざまな要因をもっている。事実、古代のインド仏教とは大きく異なっている。

古代のインド仏教は社会の上層クラスに支持され、外護されていた。仏教

# インドの新仏教運動

国際専門委員 奈良康明

い。

これに対し現代の「新仏教徒」は下層に属する。カーストを出た、と自ら称しても、所詮、マハールというカーストの実体は何らかわっていない。ヒンドゥー教徒のマハールが仏教徒になったというだけのことである。経済的にも社会的にも、アンベードカルが期待したような地位向上はほとんどない。しかもかれらは南方仏教の伝承にしたがって、はつきりした「仏教儀礼」をとり入れた。これは名実ともに「仏

徒」といっても特別のカーストを形成し、あるいは独立の社会グループをなしていたわけではない。人々はそれぞれのカーストに所属したままで専ら

教を信じ、涅槃の価値を認め、倫理的生き方を心がけた。その意味での仏教徒だった。だからと直接関係はない葬式や結婚式のような通過儀礼、その他の民間信仰的な儀礼は旧来のヒンドゥー教で行なわれているものをそのまままっけついでいた。この意味で古代インドの仏教はヒンドゥー教という世界の上ののって成立していたといつてい

「教徒」という明確なカーストとしてインド社会に定着したことである。

歴史の皮肉、とでもいうべきなのであろうか。古代のインド仏教は普遍的教を説きつつも、カースト化しなかったが故にインドで姿を消してしまっただ。反面、正にその理由によって、外国に定着した。現代の「新仏教法」はマハールという「カースト」の宗教である。一般のヒンドゥー教徒はおろか、他の不可触カーストの人たちも殆ど加わっていない。この運動が将来、全インドにひろがり、曾ての華やかな「仏

教インド」が復活するだろう、というのは仏教国粹主義的な幻想でしかない。しかしかれらは種々なヒンドゥー教徒側の白眼視に堪えつつ、仏教徒としての連帯意識を高めている。ただ、彼らの仏教徒としての生活実践については少なからぬ問題がのこっている。アンベードカル自身はそれでも仏教を学び、仏教の本まで出している。現在、新仏教徒たちのバイブルになっているものである。しかし彼の「仏教」は可成りに変容している。どちらかという和社会的にしいたげられた人たちの立場に立つ教義の再編といつてもいいものである。社会的意識がきわめて強い。

現在はアンベードカルの自ら説いた教えを稀薄になっている。なるほど本はよまれ、自らの学校で仏教は教えられていく。ベンガル仏教、セイロン系の大善提会、日本山妙法寺系の人たちを中心とする指導者が教化にあたっている。かれらの中から比丘も出てきている。しかし、新仏教徒の教に比し、比丘、指導者の数は余りに少ない。仏教を知らぬ仏教徒も多くいる。反面に仏教儀礼は確立し、仏陀への礼拝は習慣化している。新仏教とは、マハールというカースト内において、とにかく、生活の中に定着し、歩みつづけている。ここから香気にあふれ、より高い宗教性の開花してくるのは何時の日のことであろうか。

昭和54年6月1日

# 全仏の理事会開く

## 53年度決算などを承認

全日本仏教会の理事会は、五月二十八日午前十一時より、東京・芝の東京グランドホテル（ソートビル）三階「菊」で開かれ、次の議事について審議され、事業報告、決算等が承認された。

議事第一号「昭和五十三年度事業報告について」（別掲）

議事第二号「昭和五十三年度歳入歳出決算について」（別掲）

議事第三号「WFB日本大会事業報告ならびに決算について」

議事その他「①全仏事務所移転について、②寄付行為の一部変更について」

## 53年度の事業報告

国際親善の促進など

- 1、加盟仏教団体相互の連絡・提携および親睦
  - 5・1 東京本願寺藤まつり出席
  - 9 監査会
  - 11 四宗派宗務総長懇談会
  - 12 会長、副会長懇親会
  - 19 御室派小田管長本葬参列
  - 29 常務理事会
  - 6・10 京都仏教徒会議結成二十五周年記念式典出席
  - 27 千葉県仏教会総会出席
  - 長野県仏教会総会出席
  - 7・7 常務理事会
  - 11 仏教讃仰会お盆まつり出席
  - 21 香川県仏教会前会長本葬香資
- 8・29 長野県仏教徒会議出席
- 9・2 理事会
- 18 孝道教団大統理本葬参列
- 29 常務理事会
- 11・6 東寺真言宗加盟承認伝達
- 16 増上寺普山式出席
- 12・8 東京都仏教連合会成道会出席
- 14 東京BSチャリティショー出席
- 19 常務理事会
- 1・11 宗務総長会
- 13 埼玉県仏教会新年会出席
- 19 全日仏婦修正会出席
- 29 理事会
- 評議員会
- 新年親親会（京都）

- 2・9 〃（東京）
- 3・3 栃木県仏教会講演会出席
- 27 仏教伝道文化賞授賞式出席
- 〃 栃木県仏黒田師本葬参列
- 2、仏教文化運動の総合的企画および促進
  - 毎月一回「全仏誌発行、「花まつりポスト」などの普及
  - 5・10 文化会議運営委員会
  - 23 〃
  - 6・20 日本仏教文化会議
  - 3・8 文化専門委員会
  - 3、諸官庁および関係諸団体との連絡
    - 毎月一回日宗連理事會、幹事会出席、随時WCRP幹事会出席
    - 5・16 ネパール国王レセプション出席
    - 6・27 園城寺パイパス問題につき建設大臣と面会
    - 7・27 インド大使新任歓迎会出席
    - 9・11 ヤングイースト五十周年記念祝賀会出席
    - 10・27 包括宗教法人研究協議会出席
    - 11・14 交成会法輪閣落慶式出席
    - 12・28 ネパール大使レセプション出席
    - 1・24 自民党大会出席
    - 3・6 包括宗教法人協議会出席
    - 16 WCRP研究会出席
    - 27 ネパール大使退任歡送会出席
    - 4、各種仏教運動の実践および育成
      - 6・8 関東申信越静アロック会議
      - 15 組織専門委員会
      - 7・5 国際専門委員会
      - 9・2 仏代表者会議
      - 8 国際専門委員会
  - 2・27 茨城県仏大会打合せ
  - 3・12 国際専門委員会
  - 29 税制特別委員会
  - 5、各国のWFBセンターおよび各国仏教団体との連絡
    - 9・30 WFB総会開催（東京）
    - 1 スリランカ台風禍援助
    - 3・8 WFB執行委員会出席（タイ）
    - 6、世界仏教徒会議への参加および文化交流の促進
      - 10・1・1・6 第十二回世界仏教徒会議日本大会開催
      - 7、仏教および仏教徒による国際親善および文化交流の促進
        - 4・11 中華人民共和国仏教協会代表来日歓迎会
        - 6・16 ブラジル移民七〇周年先亡者追悼法要出席（サンパウロ）

## ああ野麦峠

昨年十月にクラウンインシ半年間の歳月をかけて撮影した大作「ああ野麦峠」が完成。

山本茂実の同名の原作を山本薩夫がエネルギーに演出し、大竹しのぶをはじめ女優陣は悲しみにもめげずに生き抜く可憐な女工を演演し感動を与えている。全仏も推薦団体となっており、六月三十日東京系で公開される。

## 昭和53年度財団法人全日本仏教会歳入歳出決算書

歳入 予算額 金45,550,000円 決算額 金46,519,754円

歳出 予算額 金45,550,000円 決算額 金43,412,021円

歳入歳出決算剰余金 金 3,107,733円

監査の結果証憑も完備し、収支が適正に行われていたことを認めます。

昭和54年5月15日

監事 船口暉子 ㊟

監事 植松 威 ㊟

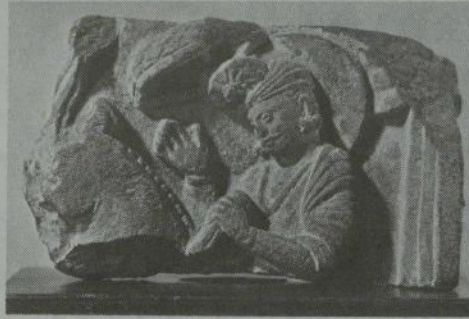
監事 岩脇宏信 ㊟

### 歳入の部

項 目		予 算 額	収 入 済 額	対 子 算	
款	項 目			収 入 超 過 額	収 入 未 済 額
1. 負 担 金		40,250,000	39,179,000		1,071,000
	1. 各宗派負担金	36,023,000	35,603,000		420,000
	2. 各団体負担金	4,227,000	3,576,000		651,000
2. 寄 付 金		200,000	0		200,000
3. 未納徴収金		500,000	1,656,000	1,156,000	
4. 基金果実		800,000	777,900		22,100
5. 雑 収 入		800,000	823,361	23,361	
6. 繰 越 金		3,000,000	4,083,493	1,083,493	
		45,550,000	46,519,754	969,754	

### 歳出の部

科 目		予 算 額	支 出 済 額	○増 △減 流 用 額	予 算 不 用 額	付 記
款	項 目					
1. 事務総局費		32,300,000	33,539,280	○ 1,239,280	0	
	1. 人 供 費	21,720,000	23,061,993	○ 1,341,993	0	
	1. 職 員 俸 給	9,200,000	8,935,000	△ 265,000	0	第2目へ 89,818流用
	2. 諸 給	10,520,000	11,849,098	○ 1,329,098	0	第3目へ 175,182流用
	3. 厚 生 費	1,200,000	1,477,895	○ 277,895	0	第1目より 89,918流用
	4. 退職積立金	800,000	800,000	0	0	第6款より 1,239,280流用
	2. 事 務 費	4,380,000	4,088,609	△ 291,391	0	第1目より 175,182流用
	1. 借 館 借 室 費	1,680,000	1,560,000	△ 120,000	0	第2項第1目より 102,713流用
	2. 通 信 費	1,200,000	1,199,438	△ 562	0	第1項第3目へ102,713流用
	3. 消 耗 品 費	200,000	187,242	△ 12,758	0	第3項へ流用
	4. 光 熱 費	350,000	277,584	△ 72,416	0	第3項へ流用
	5. 備 品 費	300,000	275,000	△ 25,000	0	第3項へ流用
	6. 印 刷 費	400,000	379,006	△ 20,994	0	第3項へ流用
	7. 諸 雑 費	250,000	210,339	△ 39,661	0	第3項へ流用
	3. 旅 費	2,000,000	2,189,548	○ 189,548	0	第1項第1目より17,287流用
	4. 関西事務局費	1,700,000	1,700,000	0	0	" 2目より 562 "
	5. 渉 外 費	2,500,000	2,499,130	△ 870	0	" 3 " 12,758 "
2. 総務局費		3,550,000	3,165,163	0	384,837	" 4 " 72,416 "
	1. 会 議 費	1,350,000	1,176,131	0	173,869	" 5 " 25,000 "
	1. 理 事 会 費	400,000	388,720	0	11,280	" 6 " 20,994 "
	2. 評 議 員 会 費	150,000	149,600	0	400	" " 39,661 "
	3. 各 種 委 員 会 費	300,000	157,720	0	142,280	第5項より 870 "
	4. 諸 会 議 費	500,000	480,091	0	19,909	
	2. 共 通 事 項 処 理 費	1,800,000	1,752,412	0	47,588	
	3. 調 査 研 究 費	400,000	236,620	0	163,380	
3. 組織局費		1,800,000	1,211,380	0	588,620	
	1. 組 織 強 化 費	1,600,000	859,125	△ 152,255	588,620	
	1. 組 織 強 化 費	1,000,000	359,125	△ 152,255	488,620	第2項へ 152,255流用
	2. 国内仏教徒会議費	600,000	500,000	0	100,000	
	2. 時 局 対 策 費	200,000	352,255	○ 152,255	0	第1項第1目より流用
4. 国際文化局費		5,800,000	5,397,638	0	402,362	
	1. 国 際 運 動 費	1,000,000	600,290	0	399,710	
	1. WFB関係費	100,000	20,000	0	80,000	
	2. 国際仏教交流費	400,000	298,300	0	101,700	
	3. 渉 外 費	500,000	281,990	0	218,010	
	2. 文 化 会 議 費	1,200,000	1,199,158	0	840	
	1. 文 化 会 議 費	900,000	899,158	0	840	
	2. 紀 要 作 成 費	300,000	300,000	0	0	
	3. 教 化 費	100,000	100,000	0	0	
	4. 機 関 紙 発 行 費	3,500,000	3,498,190	0	1,810	
5. 雑 費		100,000	98,560	0	1,440	
6. 予 備 費		2,000,000	0	△ 1,239,280	760.7	第1款第1項第2目へ 1,239,280充用
歳 出 額		45,550,000	43,412,021	0	2,137,979	



お釈迦さまの上馬像（ガンダーラ）

# ガンダーラを訪ねて

東京ブテイストクラブ 山田 一真

二月十三日の午前中、タキシラを訪れた私たちは、午後一時近くになって、タキシラ博物館の前を、小さなバスに乘乗して、次の目的地ベジャワールにとむかう。約一四〇キロ、アジアハイウェイと称されている道路を走り、途中一時間二〇分でアトックに着く、ここはインダス河の深い渓谷となっていて、北側には大きな流れがあり、南に山間部に入っていく流れの境の要所であり、橋がかかっている。このアトックには、インダス河に突き出るような台地に城があつて今でも

軍の駐屯地となつてゐる。この城は西側から入つて来る外敵や、一八世紀にはイギリス人の攻撃に対するためのものであつたといわれている。インダス河にかかるとは、鉄橋で上には鉄道が通り、下に道路であるが一車線しかなく片側だけを交々に通してゐる、よほど重要な地点とみえ、写真は一切写すことができない。アトック橋を渡り、しばらくするとノウシエラの街に入る。ここは軍都というか街道の両側には軍関係の諸施設が続く、士官学校、幼年学校等といわれるのではないかと思われる各種の学校・各種軍隊の兵舎などがあり、緑の多い区画され整備された街である。

午後三時過ぎに、ベジャワールの街に入り、宿泊のインタコンチネンタルホテルに到着し、大変遅い昼食をとる。

夕方になつてしまつたが、ベジャワールの博物館に入る。この博物館には、ガンダーラ地方から出土したいわゆるガンダーラ仏等が数多くおさめられており紀元前一世紀から五世紀までのものは、シストという石を用いて彫刻され、五世紀以後には土で形をとつて造るようになったこと、見る仏像全てが古い時代のギリシヤ・中央アジアの影響をうけた

尊像が一・二階の展示ケースにおさめられている。

一階は主として仏陀の生涯にかかわる物語を年代を追つて左側から順にガラス戸のケースにおさめられて回廊風に展示されている。これらはおそらく、この地方の僧院・寺院・ストウパなどの壁面または土壇にはめ込まれていたものと思われるが、仏典等に出てくる物語をよく表わされており、製作年代とその物語の関係を調べると、その当時の思潮が鮮明されるのではないかと、最初のケースから順に追うと

1、ジャタカ物語、2、シッタルタ太子の誕生の物語、3、太子時代の生活四門出城等も含む、4、修行時代（苦行仏もあり）、5、降魔闘伏、6、成道、7初転法輪、8活動期、9、涅槃の図などがあり、これらにまつわる話が、刻まれている。

また、二階には、マイトレヤ（弥勒仏）の彫刻が数多く展示され、種々の相をされているのに興味があつてくる。この博物館にもパンチカとハリテイ（鬼子母神）が数人の子供と共にいる彫刻があるのに目が引かれた。

以上かなりの仏像があるのだが、髪の色・衣のひだ、持ち物・頭上・台座の部分の装飾図など、一つ一つに思うことがあり単時間では及びもつかない興味にそそられ立ち至ることも忘れてしまう。約一時間ほどの見学であつたが博物館側の好意もあつて閉館後も見学させて頂き印象深かつた。唯一つ残念なことはカニミ

本堂・ご宝前・客殿その他寺院内の敷物に

## あかね毛氈



全国どこへでも発送します。カタログご希望の節はお申越し下さい。特別頒布価格にて奉仕します。

### 白井フェルト株式会社

〒111 東京都台東区駒形1-3-8  
TEL 03 (842) 3841

## 寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

### 株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

カ舍利器を見ることができなかったことである。

博物館から一旦ホテルにもどり、小休の後に土産の店に行き遊ぶ、だれしちが思う「じゅうたん」、「銅製の器類」「カシミヤ」などを引張り出しては、値をつけ合ってはやりとりをするが、さすが旅なれたメンバ、そうは買わないついに唯れも買わずまったの遊びとなった。一度、車はホテルの玄関前まで来たが、衆議一決、首尾をかえて夕やみの商店街へ、午後七時五十分まで、ぶらつく人、露店の食べ物を食べる人、民族帽を買う人、いろいろですが異国の街を肌と感じ雑踏によう、夜ともなると女人はまったく姿を見せない。ホテルにもどり八時三十分より夕食となる。一切のアルコール類はダメ、部屋にもどり持参の酒類を飲むより外になし。

二月十四日(水)第三日目、午前七時にモニングコール、七時三十分の朝食、八時三十分に出発、昨日と同じように小

# 一仏口全

笑うに笑えぬ誤字、  
当て字がある。最近ほ  
特に誤字が多いと言わ  
れているだけに、仏教  
関係となると笑えない  
ことでもできる。  
「京都で可愛い尻さ  
んと知り合いました」  
こんな手紙にびつくり  
させられます。尻でな

型バス二台に分乗する。朝のうちは曇っていたが、進むにしたがい快晴となり、湿度も適宜にあり気分は良好である。今日の見学は、タクト・イ・バイとシャバス・ガリである。バスは昨日来た道をノウシエラの街までもどり、そこから北へと道をとる。パキスタン鉄道がいつも並行に走っているの時々SLの引く列車とすれ違い、並行して走るなかなかの旅情である。ノウシエラの街はずれでカブール河の鉄橋を渡るが、これはどうも鉄道の橋のようだ。線路が敷いてある、人牛車・自転車・自動車いろいろ交々の片側通行で通って行く、北へ行く道の両側は地味豊かさを想わせ、道の両側に二重に植えられた木々の間からは、黄色い花をつけた菜の花畑が延々と続いている。しばらくするとマータンという町に入る。この地方としては中都市となるのであろう、ここから十六キロの地点にタクト・イ・バイがある。午前十時十五分にベシヤワールから北東へ八十・五キロの地に

く尼さんでなくてはいけない。十六夜日記の作者阿仏尼「もやはり阿仏尼」としてほしい。これらは女子大生の書いた誤字をさそうである。

## 誤学です

お寺でもいろいろあります。「改名を知らせて下さい」とは戒名のごとく御経料(御経料)、塔波(塔婆)などもよくある。

あるタクト・イ・バイのある山の麓に着する。街車より約三キロほど入り込んだ所だが、この道は畑の中を道というよりは雨期に水が流れるところであらうと思われる道を険しく登り降りして車が走るのであるが、ようやく小型バスに分乗している意味がわかった。ジーフ型(四輪駆動)の車でない、この間歩いてこなければならぬわけである。天候にも幸されごく麓までこられたわけである。しかし、このタクト・イ・バイにある寺院は二五メートルの山の上にありこれは歩いて登らねばならない。このように、アフローチするのが大変困難であったためにも、幸にして遺跡が残されていたことも考えられる。

かなり急な勾配の坂を機車に登って行く、周辺の山には羊を追う近隣の牧夫があちこちにおり、中には鎖線に立ってコーランでも唱えているのか響き渡る澄んだ声が聞えくる。下る鎖線のあちこちに石積された僧院の遺跡がみられる。

学習研究社で誤字傑作を一般募集したところ次のようなものがあつたことごとです。

- 「陣痛な面持ちで」(陣一沈)
- 「絶交のチャンス」(交一好)
- 「俺は出家する」(出家一家出)
- 「非常持出し」(持一持)
- 「嫁さまくる」(嫁一稼)
- 全仏誌も「あんだ人の誤字笑えないんじゃない?」といわれぬように!

# 再録板

## 海外布教について

現在、わが国仏教の海外布教はハワイ、北米、南米など移民地区を中心に行なわれている。宗派的には浄土真宗本願寺派(西本願寺)が最も活発だ。南米諸国、米国、カナダ、ヨーロッパなど各方面に約百八十の寺院を持ち、海外信徒数も約二十万人。布教のため常駐する開教師も二百人程度。

これに次ぐのが曹洞宗。やはりハワイ、南北アメリカの日系人も布教の対象にするが、弟子丸泰仙師のいるフランスを中心に、禅アームに乗ってヨーロッパ人にも食い込んでいくのが特色だ。支部数六十四、海外信徒一万五千人。開教師も約五十人が常駐している。

このほか新仏教では創価学会、靈友会、立正佼成会などが、南北アメリカを中心に布教活動を展開、信徒層の拡大に努めている。

日本仏教の海外布教はわが国の移民開始より少し遅れて、明治三十年ごろから始まる。西本願寺派が北米、ハワイの移民の法事、葬式を手がけたのがはじまりで、当初は布教という色彩は薄かった。しかし、大正に入つて、真宗大谷派(東本願寺)が満州(中国東北部)、台湾方面へ、日蓮宗、浄土宗が北米大陸へとそれぞれ活発に布教を行うようになり、さらに、鈴木大拙氏が米国東海岸へ臨済宗を

昭和54年6月1日

広めるなど、日本仏教の布教地域は次第に拡大して行った。

だが、六〇年代前後から伸びていた曹洞宗のヨーロッパ、新仏教の南北アメリカの現地人向け布教も、このところ中だるみ気味だ。

全日本仏教会の関係者は、海外布教が日米人以外にはあまりに広い原因について①祖師仏教（開祖の教えによる）という本来の性格、②伝道する際の言葉の難しさ、などを指摘する。そして、こうした状況を打破するためには、仏教関係者が海外布教の熱意を持つこと、現地人留学生を積極的に受け入れ、帰国後、布教に当たらせる—といった対策の必要性が叫ばれている。（朝日新聞五月八日付朝刊）

## 社会を明るくする

運動 ぜびご協力を

毎年行なわれる「社会を明るくする運動」は第二十九回目をむかえる。これについて日本宗教連盟（全仏など五団体）では事業計画の一環として協力しているが、先般「第二十九回社会を明るくする運動の実施要綱が、中央実施委員会より送付され協力依頼がありました。全仏加盟の宗派、県仏、団体におかれましてもこの運動が広く社会に浸透しますようご協力をお願い申し上げます。

今回の重点目標は「地域活動の推進による青少年の非行防止」で、最近の青少年非行が複雑多様で事態は極めて憂慮す

べき状況にあり、地域住民の諸活動を一層強力に推進することにより、青少年の非行を防止しようというものである。

○標語 防ごう非行、あなたとわたしのつなぐ手で。

なお、主唱は法務省で、期間は今年七月中となっている。

## ◆掲◆示◆板◆

三重県仏 三重県仏教会の事務局は左記に移転いたしました。

三重県鈴鹿市池田町 養元寺内  
電話〇五九三三八二一八一九

島根県仏 島根県仏教会の事務局は左記に移転いたしました。

島根県益田市白山イ一〇妙雲寺内  
天台真盛宗 長谷川真三宗務総長の任期満了に伴い、新宗務総長に石橋周俊師を選任した。

## 事務総局録事（五月）

七日 局内会議

九日 茨城大会打合せ（水戸）

十五日 監査会

十八日 全日仏青総会

二十四日 WCRP日本委員会

二十五日 局内会議

二十八日 理事会

三十日 日宗連理事会

◇全仏の新住所

東京都港区芝公園四一七七一三  
電話〇三（四三七）九二七五

昭和五十四年六月一日発行  
六月号 第二四九号

発行人 罇 潤正浩  
編集人 安本利正  
発行所 財団法人

全日本仏教会

東京都港区芝公園四一七七一三  
電話〇三（四三七）九二七五

## ＝夏におくる海外旅行＝

7月23日発	11日間	秘境小チベット・ラダックの旅
7月30日発	10日間	スリランカー一周とペラハラの祭り
8月9日発	14日間	インド・ヨガの旅
8月17日発	10日間	シルクロード歴史と美術の旅
8月20日発	11日間	インドの魅力を探る旅
8月24日発	10日間	シルクロード歴史と美術の旅

この他、仏跡参拝団などの団体旅行のご相談もお受けいたしております。海外旅行のことなら何なりとご相談下さい。

—詳しいパンフレットご希望の方は下記まで—

当社作成の「仏跡参拝」の小冊子をご希望の方は無料で送付いたしております。ハガキでお申し込み下さい。

取扱旅行会社  
運輸大臣登録一般第154号  
**株式会社 子代田トラベル**  
東京都港区南青山5丁目6番20号（千成ビル）  
電話 407-3612（代表）  
400-5100  
郵便番号 107

## WFB日本大会一周年記念

## 日・タイ仏教交流の翼

（バンコック5日間の旅）

■昭和54年10月22日～26日

■旅行費用 ￥145,000

エメラルド寺院・ねはん寺・大理石寺院等参拝・水上マーケット・アマタヤ観光・ナコンパトム視察など・WFB本部訪問と懇談会  
（宿泊はすべてハイヤットラマホテル（バンコック））

■お問合せお申込み（取扱旅行社）

**日本旅行** 五反田営業所

〒141 東京都品川区西五反田1-32-11

☎ 03-492-2940

■後援 全日本仏教会